

"行革選挙"を総括する！

大前研一

自民党が勝利したとはいふものの、「第二次橋本内閣」発足までにはまだ曲折がありそうだ。それにしても、一体、選挙で約束した公約はどうなってしまうのか。政治改革選挙といわれた93年でも、「やったのは選挙制度の改悪だけ」とみる大前研一さんが、今回の選挙を冷静な目で総括、「各党は公約実行コンテスト」で競ってもらいたい、と問題提起した。

税金1千億円も使った選挙をムダにするな

今回の選挙は自民が圧勝した、といわれているが、そんなことはない。選挙制度を自民が良く研究し、候補者の立て方がうまく"死に票"が少なかった、ということだ。反対に新進党は次点が圧倒的に多く、これが無駄になっている。比例区で重複立候補をしなかったことがこれに拍車をかけている。

一方、有権者の方は投票行動を通じてどのような意志表示をしたかという、圧倒的に「反自民」である。また、自民党に投票した人は有権者の20%に過ぎず、また新進は東海と近畿で第一党になっており、東京でも僅差である。

政党別に支持を見るには比例区の場合の方が正確であるが、これで見ると、新進党は大活躍している。獲得議席でついでしまった大差はあくまで選挙戦術の失敗であって、マスコミの言っているような「国民の判断」ではない。

民主党はまだまだ基盤が弱い。選挙前と同じ議席しかとれていない。またその票は共産党と食い合っていて、決して政策が支持されたモノでないことが分かる。単に怒りの一票、という性格で、次回の選挙でどこに行くのかは予測できない。

このようにしてみると、今回の選挙制度がいかに自民党に有利なモノか、皆さんもこれで分かったろう。しかし今となってはもう遅い。勝ち誇った自民党が自ら進んでその制度を変えようとは言わないだろう。

連立を組む惨敗社民、さきがけはぜひこの選挙制度の見直しを"縛り"の中に入れてから与党の中に入ってもらいたい。自分たちを殺す制度に賛成して、それで大勝した自民党と与党を組む、という感覚は我々には理解できない。

もっとも自民党は新進からのオチこぼれでも十分与党が組めるので、今回は社・さには高飛車にやめよう。政権復帰を手伝ってくれた人々を消滅さ

せる、というのは人間のやることではない。しかしそれが分かっている何もなかった方も悪い、という教訓が今回の選挙の最大の収穫だ。

ところで我々有権者は何を待ったのか？

税金一千億円以上をかけて選挙したのだから国民は何かを返してもらわなくてはならない。そこで公約、ということになるが、今回は追跡してもしようがないような公約ばかりである。

各党とも"公約実行コンテスト"で競え

しかしまあ、「行革選挙」と言われた今回の選挙で、各政党とも行革のアイデアコンテストに参加した。これからは是非「実行」コンテストで競ってもらいたい。

今の日本でもっとも大切な行革は、歳出削減である。歳入の倍以上カネを毎年いろいろなポケットから出してきて使っている今の肥満体質を減量しなければ心臓が持たない。しかも若い世代のポケットに手を突っ込み30年以上先の人をアテにしている。破綻することが分かっている、いまは何もやらない、と言うのが政・官・財の鉄の三角形がたどり着いた蛇の道である。

"生活の質を上げコストを下げる"を全力で！

私の経営コンサルタントとしての経験では、経営を良くするには売り上げを上げる（政府に関しては歳入を上げたり、雇用を無理して作るのではなく、ほっといても産業を活発にすること）、コストを下げる（歳出を一律ではなく構造的に、かからないようにすること）しかない。しかもこれを顧客から見ると満足度が高まるようにやらなくてはならない。それ以外に企業発展の道はないのである。

今の政府がなぜ国民の信頼を失ったかと言えば、この「企業成功のカギ」のすべて逆さまを平気でやって、またそれがいけないことだという自己認識さえない、からである。

この政治不信を払底するには、生活の質を上げて、コストを下げる！ この単純なことをやらなくてはならない。これは省庁の統廃合などと言う成果の計れないモノではなく、明らかに生活している人にとっては実感できるモノである。

新しい政権には是非この政治の中心課題に全力で取り組んでももらいたい。

(夕刊フジ10月23日号より転載)